

住民と行う漂着ごみ回収やハマボウフウ保護活動で島の魅力 PR

協会会長賞 愛媛県 松山市立興居島小学校

愛媛県松山市の沖約 2km に浮かぶ「興居島（ごごしま）」。「対岸の松山や瀬戸内の島々が見晴らせる眺望が魅力のひとつだが近年、海岸の至る所に漂着ごみが散乱している。島で唯一の小学校となる同校では、使命感をもって多様な清掃活動に取り組む。同校の目の前にある「船越海岸」は、白い砂浜が広がる穏やかな浜辺だが、ペットボトルやプラスチック製品のごみが目立つ。児童は身近な問題として海岸清掃を行い、地域美化意識を磨いている。

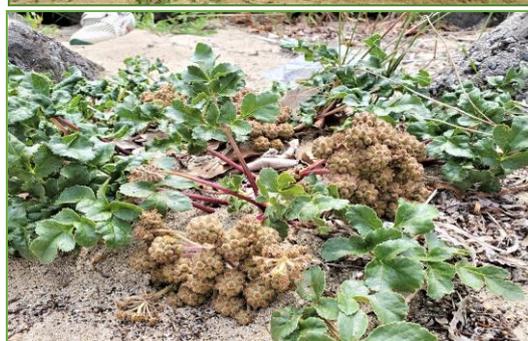
その傍らで、全面的に児童をアシストしているのが、地域団体「わけひめフラワーサロン」だ。清掃活動とともに、希少な海浜植物「ハマボウフウ」の保護にも注力。「ビューティフル興居島」と名付けて、住民が講師になってハマボウフウの観察、保全方法などを指導している。総合的な学習の時間を利用し、保全と学習をリンクさせながら問題解決に取り組んでいるのが特徴だ。

ハマボウフウはもともと海岸に多数生息していたが、台風などで砂浜が削られるなどして、数が激減。かつての浜辺を取り戻そうと住民たちが活動したのを機に、児童も参加するようになった。

「わけひめフラワーサロン」の元会長、池本良雄さんは、「この取り組みの一つひとつが、将来どこかで役に立ち、深い絆で結ばれ、立派な大人に成長してくれると信じています」と微笑む。

同校に隣接する興居島中学校とは、共同で環境活動を行う機会も多い。そのひとつ、「クリーン興居島」では、島内の複数の海岸に出向き、清掃を実施。いずれも海水浴シーズンには松山市内から多くの人たちが訪れる海岸で、児童は興居島の魅力をアピールすべく美化活動に励む。また、ハマボウフウの保全活動を知ってもらうために新聞を作成し、松山と島を結ぶフェリーなどに掲示。

興居島の人口は減少の一途を辿り、子どもの数も右肩下がりだ。現在は、島外から通学する児童が 8 割に上るが、目の前の海を舞台に、献身的な住民や中学生に支えられながら 6 年間学ぶ児童の心には、「ふるさと」への誇りがしっかりと刻まれている。



愛媛県 松山市立興居島（ごごしま）小学校

学校長：八木 誠一（やぎ せいいち）

児童数：45 名（2020 年 11 月末現在）

住所：愛媛県松山市泊町甲 425-3

電話：089-961-2011

アクセス：「泊港」か「由良港」から自転車で約 10 分

上：住民といっしょに船越海岸清掃活動、2 番目：児童が植えたハマボウフウが砂浜に根付き種ができたところ、3 番目左：フェリーに掲示中の興居島の魅力を PR するポスター、右：住民から教わったことを新聞にして発信、下：中学生と島の海岸を清掃して海水浴客を迎える